

1. 単元の目標 (本単元で育成を目指す資質・能力)

- ◎書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。(B書くこと(1)イ)
- 相手や目的を意識して、調べたことから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。(B書くこと(1)ア)
- 比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。(情報の扱い方に関する事項 (2)イ 情報の整理)
- 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとすること。(学びに向かう力・人間性等)



2. 単元の評価規準

評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①引用の仕方や出典の示し方を理解し、使っている。 (2)イ	①書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで見出しを立て、文章の構成を考えている。 (B(1)イ) ②相手や目的を意識して、調べたことから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。 (B(1)ア)	①粘り強く、書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって、お客さんのためにお店がしている工夫について、レポートを書こうとしている。

3. 単元構想

言語活動	学習過程	学習内容	資質・能力が身に付いた子どもの授業終末の振り返り記述 (例)	評価規準・評価方法	
きっかけ (他教科等とのつながり)		社会科「店ではたらく人の仕事」の単元で、スーパーマーケットを見学し、お客さんのことを考えた様々な工夫を見つける。 ・お客さんが商品を買やすいようにする工夫、安全で新鮮なものを提供するための工夫 等 スーパーの見学に行って、お店の人が、お客さんのためにいろいろな工夫をしていることが分かったよ。初めて知ったことがたくさんあったよ。お店に来るお客さんは、きっと知らないと思うな。調べたことをまとめて、お客さんに教えてあげたいな。どうやったら分かりやすく書けるかな…。			
社会科 をさらに調べてみたいと思ったこと	お客さんのためにお店がしている工夫について、レポートを書こう！	題材の設定・情報の収集・内容の検討	1 教材「調べて書こう、わたしのレポート」を一読し、学習課題を確かめ、学習の見通しを立てる。 レポート(57ページ)を読み、伝わりやすいレポートの書き方の工夫を見付ける。 ・2年生の学習「かんさつしたことをかこう」の「かんさつカード」と比べることで、レポートのよさに気付かせる。 ・レポートのよさとして気付かせたいこと (見出しを立てて書いている、「調べて分かったこと」「調べた感想」を別に書いている、「調べて分かったこと」は、内容のまとまりごとに段落を分けて書いている)	・「調べた理由」「調べ方」「調べて分かったこと」とか、分けて書いているから、レポートは読みやすい。 ・2年生の時は、「分かったこと」と「感想」をいっしょに書いていたけれど、分けて書くと言いたいことがはっきりとわかることが分かった。 ・見学では、たくさんのお店の工夫を見つけてきた。知らせたいことがたくさんあるから、何を書いたらいいのか、まよってしまうなあ。	
		構成の検討	2 お客さん(読み手)にスーパーマーケットの様々な工夫を伝えること(目的)を意識して、自分が一番伝えたいことを決めてレポートの題名を書く。 集めてきた情報(付箋に記入)を共通点や相違点に着目しながら、伝えたいことが明確になるように整理する。【付箋を整理しているイメージ】	・一番伝えたいことは何か、繰り返し考えて、題名の言葉を考えてみた。 ・自分が伝えたいことは、「子どものためにいろんな工夫をしてくれていること」だとすぐに決まっていたけれど、題名がすごく長くなってしまった。もっと短く分かりやすくするために、お家の人にも相談してみようかな。	【思考・判断・表現②】 ・相手や目的を意識して調べたことを書いた付箋を比較したり分類したりして書くことを選んでいくかどうかの確認。(付箋・ノート)
			3 レポートに書く順番を考え、組み立てメモを作る。 相手や目的を意識しながら、「調べた理由」「調べ方」「調べて分かったこと」「調べた感想」の書く順番や、書く内容を決める。 学んだことを生かして、「調べた理由」「調べ方」を書く。	・「調べた理由」をレポートのはじめに書くと、調べようとしたきっかけが伝わるから、分かりやすい。 ・「まず」「その後で」のような、順序を表す言葉を使うと、読む人にどうやって調べたのかが、くわしく伝わる。	
		考えの形成・記述	4 「調べて分かったこと」に書く内容の順序(整理の仕方)を考える。それぞれの整理の仕方(書く順序)を、子ども同士で確認することで、分かりやすく伝える工夫を共有する。 ・伝えたい順に言う ・最後に一番言いたいことを言う 等	・伝えたいことがちゃんと伝わるようにするためには、書く順序を考えることが大切だと分かった。 ・私は一番伝えたいことから順に並べました。友達が分かりやすいと言ってくれたのでよかったです。 ・私は友達と話をし、順序を変えました。その方が読み手があきないと思ったからです。	【思考・判断・表現①】 ・書く内容の中心を明確にし、文章の構成を確認しているかの確認。(メモ・ノート・発言)
			5 組み立てメモをもとに、「調べて分かったこと」を書く。 見学した際にインタビューしたことを入れる場合は、引用の表現を用いて書く。	・書きたいことが伝わるように、必要なことだけを書かないといけないね。 ・～の工夫を伝えるために、この言葉は絶対入れたいと思いました。 ・店長さんから聞いたことは、店長さんの言葉と分かるように、「店長さんによると…」と気をつけて書きました。	【知識・技能①】 ・引用の仕方を理解し、レポートの適切な部分に引用の表現を使っているかの確認。(ノート・発言)
		推敲	6 調べた感想の書き方の工夫を、教科書教材から見つけ、感想の書き方を考え、自分のレポートの「調べた感想」を仕上げる。 「調べて分かったこと」に書いたことを見直し、調べたことに関連した、感想を書く。	・調べた感想には、今まで書いてきた内容とつながりのあることを書かないといけないな。そうすることで、自分が伝えたいことのよさがより伝わるから。	
			7 間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているのかを確認したりして、文や文章を整える。	・誤字脱字だけでなく、読む人が本当に「気になるな。行って確かめてみたいな。」と思ってもらえるような表現になっているか、きちんと見直そう。	
		共有	8 読み合う観点を明確にした上で、書いたレポートを友だちと読み合い、気付いたことを伝え合う。 自分のレポートのよさを見付ける。 単元の振り返りをする。	・「調べた理由」「調べて分かったこと」など、内容ごとに段落分けをして書くと、整理されて読み手に分かりやすくなりました。夏休みに自由研究をする時に、この学習を生かして、レポートを書こうと思います。 ・初めは、「調べて分かったこと」に書くことを、メモをした順で書こうとしていました。でも、読み手に最後まで楽しんで読んでもらうために、(3)に一番伝えたいことを書くことにしました。すると、〇〇さんが、「最後までわくわくしながら読めたよ。」と言ってくれました。今度書く時も、「調べて分かったこと」に書く順序を工夫したいです。	【主体的に学習に取り組む態度①】 ・粘り強く、試行錯誤しながら書き表し方を工夫し、レポートを書こうとしているかの確認。(レポート・発言)

- レポートの題名
名前
1. 調べた理由
 2. 調べ方
 3. 調べて分かったこと
(1)
(2)
(3)
 4. 調べた感想
 5. 調べるときに使った資料



単元で付けたい力(資質・能力)が身に付いた児童の姿(具体的児童の姿で記入)

- ・お店に来るお客さんに伝えたいことは何かを思い描きながら、集めてきた情報を比べたり整理したりして、自分が書きたい内容の中心を決めることができる。
- ・レポートの形式とそのよさを理解し、今後に生かそうとしている。
- ・調べて分かったことを、どのような順序で書いたら読み手に分かりやすく伝えられるのか考えながら、小見出しを立てることができる。

【レポートのイメージ】